

「市内の神社・仏閣探訪」

野老澤の歴史をたのしむ会 (担当 A グループ)
大舘 徹、室井静美、(報告者)山田 武

★実施日 令和3年(2021年)6月3日(木) 10:00~12:50

★探訪・講話 佛蔵院 竹中 清悟住職、
荒幡富士・浅間神社 荒幡富士保存会 内野 幸雄会長

★参加者 18名(男性11名、女性7名)

●はじめに

今回のテーマである「市内の神社・仏閣探訪」の企画に当たっては、単に訪問するだけではなく宮司さんや住職さんに直接お話を聞かせて頂ける場所を訪ねたいとの願いで取り組みました。そこで、令和元年6月5日に「神社・仏閣の建築様式」をテーマとした当会の活動で、講師をお願いした北秋津在住の天野保治氏(元建設会社勤務)に相談させて頂きました。天野氏は市内の神社・仏閣を全てスケッチ写生しておられるので、その人脈を期待し紹介をお願いしたところ、快く山口方面の上記探訪先と講話者をご紹介いただき実現できました。

この企画は昨年6月に実施予定でしたが、コロナ禍のため中止を余儀なくされました。今年も屋外活動は兎も角として、本堂内での講話は密になる可能性がありためらいを覚えました。ご住職からOKを頂き実行することができホットしました。

●配布資料

所沢市発行の冊子「所沢の歴史と文化」から(19)佛蔵院と(40)荒幡の富士の資料は室井さんから提供して頂き、コース地図は大舘さんの手作りです。佛蔵院のパンフレットと参加者名簿は山田が準備しました。

●時間帯及びコース概要

- 9:50 佛蔵院門前に集合(下山口駅改札は狭く、3密防止のため)
- 10:00~10:40 佛蔵院本堂にて竹中住職の講話と質疑応答
- 10:40~11:10 本堂内の仏像と杉戸絵(所沢市指定文化財・石川文松筆「曲水清遊図」「蓮花図」)の見学
- 11:10~12:10 徒歩にていきものふれあいの里センター経由(トイレ休憩)して浅間神社・荒幡富士へ
- 12:10~12:45 内野保存会長から浅間神社と荒幡富士の歴史等の講話
- 12:50 森林浴をしながら西武遊園地西までウォーキングして解散の予定でしたが、いきものふれあいの里センターで自由解散。
時節柄、会としての昼食会はなし。

●講話の内容(筆者の印象に残ったことを記載)

佛蔵院

- ・真言宗の総本山は高野山だが、当寺は豊山派なので、本山は奈良の長谷寺である。
- ・当山は西暦716年朝鮮から渡来した王辰爾一族が建立した時に始まる。西暦810年代に真言宗の開祖空海上人(弘法大師)が当寺に立ち寄ったと伝えられており、所沢市内にも弘法伝説が残されているが、その真偽は定かではない。
- ・寺院には山号、院号、寺号があり、「王辰爾山佛蔵院勝楽寺」が正式名称だが、「勝楽寺」は村の名称でもあり、法人登記名の「佛蔵院」を通常の名義としている。
- ・御本尊は十一面観世音菩薩だが厨子の中に納められており拝観できない。

- ・昭和4年、狭山湖（山口貯水池）築造のため、旧勝楽寺村にあった佛蔵院は檀家と共現在地に移転した。当時の墓石は各檀家の敷地内にあり、移転に際して墓石は檀家がそれぞれ現在の集合墓地に運んだ。伽藍は何回となく火災に遭い、過去帳を含め古い資料は残っていないが、墓石に彫られた文字が貴重な資料となっている。



【本堂で竹中住職のお話を聞く】



【石川文松筆「曲水清遊図」の杉戸絵】

浅間神社と荒幡富士

- ・明治14年1村1社制の施策により、三つの集落にあった三嶋社、氷川社、神明社を合祀し、浅間神社として現在の場所に移転した。
- ・浅間神社は富士信仰の神社であり、三つの集落の人心を一本化するために富士山を造るという夢のような計画に住民が賛同し、明治17年に工事開始、実に述べ1万人を超える人力と15年に及ぶ歳月を費やして明治32年7月1日に完成、山開きが行われた。（高さ：12尺88寸、傾斜角度：38.9度、総体積：10,810m³）
- ・当時土運びに使用したザル（山梨県勝山村の特産品）が近くの家蔵から見つかり、現在吾妻まちづくりセンターに保管展示されている。
- ・大正12年の関東大震災、平成23年の東日本大震災では、山頂や登山道に大きな被害を受けたが、地元住民が先祖の汗と和の結晶を後世に残す責任があるとの団結力を結集し見事に修復した。
- ・荒幡富士保存会では山容を後世まで護り続けるために、毎週交替制によるパトロールを実施する他、年2回（6月と12月）町内会、小中学校の先生・父兄・生徒、シルバー人材センター等の協力による草刈り、樹木の剪定、登山道の改修、清掃作業を行っており、令和2年4月に環境大臣より自然環境功労者表彰を受賞した。



【浅間神社の由緒を説明する内野会長】



【緑に包まれた荒幡富士に登山】

●おわりに

- ・今回2か所を探訪した感想は、東京市民（当時）の飲料水確保のため（埼玉県の水源ではない）先祖代々の土地を手放し、寺も墓地も移転することを決断した先人たち、15年もかけて手作りで富士山を築造することに団結した先人たちに心底から敬意を表したいと思います。歴史を学ぶということは先人たちのご苦勞を知って感謝することも大事だと感じました。近年利己主義が蔓延していますが、目先の利益でなく将来を見据えた判断をするよう自分自身を戒めたいとの思いを強くしています。
- ・現在の所沢市の地図を確認したら、狭山湖の西側に「勝楽寺」の地名があることに気付きました。市役所の市政情報センターで住民数を聞いたところ、山林のみで現在はゼロとの回答でした。ついでに湖底に沈んだ戸数や人数等調べたいと思い、資料の有無を尋ねたところ「所沢市史」のコーナーにある『湖底のふるさと』という小冊子があることを教えてくれました。この冊子は移転した9人の方々が編集委員となり2年数ヶ月を掛けて昭和58年に発行されたものです。その冊子を見て分かったことを下記に紹介します。

移転戸数：282戸

移転人数：1,720人

「特に大きな反対運動もなく、東京市（当時）の予算どおりに買収に応じ、祖先の遺骨を掘り返して各地に移転した。」との記載がありました。

地域別の移転先は次のとおりです。

| | | |
|--------------|----------|----------------|
| 山口村（現山口地区） | 99戸（35%） | } 所沢計182戸（64%） |
| 小手指村（現小手指地区） | 40戸（14%） | |
| その他の所沢地区 | 43戸（15%） | |
| 村山村（現武蔵村山市） | 44戸（16%） | |
| 大和村（現東大和市） | 30戸（11%） | |
| その他の地区 | 26戸（9%） | |

以上のとおり、大部分の住民は所沢とその近隣地区に移転しており、その子孫は佛蔵院を菩提寺としておられるものと推測されます。

以上

参 考

勝楽寺村（当時）の佛蔵院の写真や資料は下記の図書にも掲載されています。

「狭山湖—水底の村からの発信」 宮本八恵子著

令和元年（2019年）さいたま民俗文化研究所 発行 大舘勝治.